

都心まちづくり計画策定協議会会議

第1回 会議記録【要約版】

日 時：平成26年10月6日 13:00～15:00

場 所：札幌市役所本庁舎6階 1号会議室

出席者	：一般社団法人 都市・地域共創研究所 代表理事	小林英嗣氏
	札幌市立大学 理事長・学長	蓮見 孝氏
	千葉大学大学院工学研究科 教授	村木美貴氏
	法政大学現代福祉学部 教授	保井美樹氏
	北海商科大学商学部 教授	中鉢令兒氏
	北海道大学大学院工学研究院 准教授	高野伸栄氏
	株式会社日本政策投資銀行 北海道支店長	関根久修氏
	札幌商工会議所政策委員会 副委員長	池内和正氏
	三井不動産株式会社 北海道支店 統括	(代理出席) 管林浩二氏
	三菱地所株式会社 札幌支店長	大鐘稔陽氏
	札幌駅前通まちづくり株式会社 取締役総務部長	(代理出席) 白鳥健志氏
	札幌大通まちづくり株式会社 代表取締役社長	廣川雄一氏
	札幌市 市民まちづくり局 都市計画部長	三澤幹夫
	〃 市民まちづくり局 総合交通計画部長	佐藤達也
	〃 環境局 環境都市推進部長	城戸 寛
	〃 経済局 産業振興部長	小野 聡
	〃 観光文化局 観光コンベンション部長	高野 馨
	〃 都市局 事業推進担当部長	齋藤英幸
(事務局)	〃 市民まちづくり局 都心まちづくり推進室長	高森義憲

配布資料：・委員名簿

・座席表

・都心まちづくり計画策定協議会会議資料

・都心まちづくり計画策定協議会①【参考資料編】

【本計画の役割、期待】

小林) 第4次長期総合計画をふまえて都心まちづくり推進室ができ、都心に関わる諸々のものを計画として整理したものが、前回の都心まちづくり計画。都心まち室が庁内調整、民間との協議をしながら進めてきたものが目に見えるかたちになってきたところ。PPPでまちを動かしていくということが、Ver.2の一番大事なところだと思っている。

村木) まちづくり戦略ビジョンの中で、10年間のまちづくりの視点が多く書かれているが、絶対に捨ててはいけないものは何なのか、プライオリティをしっかりと決めていくことが大事。

白鳥) 本計画に期待しているのは、ソフト事業をどこまで書き込むかということ。経済の環境づくりという言葉ではなく、更にもう一歩どのように書き込んでいくかが重要。

小林) 札幌型の都心まちづくりが何なのか、それをしっかりやろう。専門部会もテーマを絞って提案するかたちにしたい。まちづくり会社だけでは解決できない問題を議論していくべき。どのくらいの時間で誰が実現するのか、PPPも含めどういうところでサポートできるのか、考えたい。

【風土特性の活用と対応】

高野) 交通の視点からみると、札幌は夏と冬の交通環境の差が大きいことが特徴。冬はツルツル路面で年間千人以上の方が路面転倒により怪我をしているとみられているが、10年前に比べると、地下歩行空間やロードヒーティングの設置など、ハード整備により冬季の歩行環境の解決策は少しみえてきている。冬季の都心アクセスについても、まちのレベルアップの要素として冬季の交通を考えることが必要ではないか。

蓮見) 札幌はプロダクトデザインの視点でみると、非常に興味深いまち。日本の都市が無秩序にスプロール化していくなかで、あまり広がらずある種 Compact big city となっている。

蓮見) こんなに雪深いまちで多くの方が暮らせる技術を身に着けていること、その結果として地上と地下の重層都市となり、ここにしかないインフラを形成している。ここをプラス思考で強化していけば、24時間厳しい環境の中で、都市機能が維持されつつ、みんなが安心して暮らせるインフラのモデルになるのではないかと思っている。

蓮見) 札幌は超高齢化社会となる可能性が高いと思うが、非常に高い都市機能を持っていることを、セットで売っていくと素晴らしいと思う。ない物をどんどん取り組んでいくのではなく、風土に合った特性を最大限メリットに変えていく知力が求められる。

【拠点性】

関根) 国内の拠点都市のひとつとしては、バックアップ拠点として安全安心な部分で役割を果たせるのではないか。また北海道の中核都市として、子供を育てやすい環境であるという意味でも、都市の競争力を強めることができるのではないか。

管林) バックアップ拠点に限って札幌の優位性を高めるのは限界がある。防災に注目したビルが次々と建ってこないのは、札幌の産業面での盛り上がりには欠けているからだろう。

【経済の活性化と産業育成】

- 関根) 札幌は力はあると思うが、まちなかで札幌オリンピックに向けて作られたものの新陳代謝が進んでいない。どう開発を進めていくのかが、大きな課題。
- 管林) 企業育成が進んでいないと、民間も開発に乗り出さないし、古いビルが機能更新されない。札幌発の起爆剤となるような産業育成にも視点が及ぶと良いのではないか。
- 大鐘) 地域社会の活性化と同時に、地域経済の活性化につながる話をしていかななくてはならない。札幌の現状では、積極的に民間投資を呼び込む環境になっていない。
- 白鳥) 都心の経済環境とは何かを考えると、床をたくさんつくるのではなく、都心で働く人がいるのだから、働きやすい環境とは何かを考えるべき。気持ちよく働き暮らしていくことによって、様々な産業が興り、経済の活力を増していくのではないか。

【観光・交流、MICE】

- 中鉢) 観光地というのは必ず寿命があり、その後の需要をどう作るかが、観光と都市との関係。人口が1人減っても、7人の観光客が来ればまちは成立するというデータがあり、過疎地にはなるべく人を呼ぼうとしている。札幌は6倍程度だが、人口が減少しても、観光客が多く来ればまちなかの経済力は下がらない。
- 中鉢) シンガポール、ハワイなどの観光地でMICEが成功するのはあたりまえ。札幌も観光地なので成功しそうだが、しないのはなぜか。まちづくりに絡めてやることも大事だが、アフターコンベンションを考えることも重要。MICEでは、一般の観光に比べ消費額は1.5倍と地域へのリターンが大きい。札幌では細かなコンベンションを安く、たくさんやって地域で観光してもらおうほうが、よいのではないか。
- 小林) 暖かい地域ではないがカナダでもMICEが成功している。札幌では、安易に箱モノを作るのではない戦略を取れるのではないか。
- 大鐘) 「食と観光」という話もあるが、成長戦略をどこに置くのかが明確でない。仮にMICE・観光でいくのなら、五つ星のホテルなど札幌にないものをどう戦略的に誘致していくかの目線でまちづくりを考えなくては。
- 池内) ニセコは、10年前に地域の価値を見出した3人のオーストラリア人がその価値を発信し、発展した。札幌も山岳リゾート都市だと思うが、札幌にも見えない価値があるのでは。Sightseeingも重要だが、居住人口を増やすためには、移住まで含めて考えられないだろうか。魅力ある札幌を、日本だけでなく海外にも発信することも重要と思う。

【都市間競争、情報発信】

- 小林) 札幌は国際戦略特区で外され、福岡は選ばれた理由を客観的に考えなくてはならない。
- 保井) 福岡の前の都心まちづくり計画では、姉妹都市である釜山の方が策定委員に入っ

ていた。福岡は、東京ではなく直接アジアを見てしまおうという動きがあり、かなり意識的に海外の知恵を入れて進めておられるが、その辺は札幌市もぜひ進めて欲しい。

保井) ニセコではオーストラリア・香港・台湾の観光客が多く、アジアに似た気候の福岡とは異なり、自分の国にはないパウダースノーや涼しい気候を求めて来ている。新幹線の話もあるので、オール札幌、オール北海道での成長戦略があるほうが良いのでは。それを受け止める都心では何が必要か、地区レベルのエリアマネジメントの先に別レイヤーが必要ではないか。

小林) 札幌の知名度はグローバルに見て非常に低い。アジアでは、札幌よりも北海道。そのなかで、戦略的にどのように作って発信していくかを考えることが大事だろう。

小林) 都心の価値を今以上に発信するのは、日本人以上に意識しながらやる国の人もたくさんいるので、コラボレーションすることもより発信することにつながるのではないかと思う。

【官民の協力体制、エリアマネジメント】

村木) 海外の成功事例を見ていると、民間を引っ張るためには、公共がどこまでやるか腹をくくって見せない民間はついてこない。とにかくひたすら投資をして成功例を作るとか、**showcase** をつくるなど。そこを決めるのが、本計画の重要なところだと思う。ドバイや上海では、投資を呼んでくる部局がある。それを作るくらいの心意気で計画を作られるのが大事だと思う。

保井) 札幌市はこれまで戦略的に賑わいやまちづくりの財源を生み出すような空間を作り出してきており、日本の中でも成功している事例だと思うが、今後も戦略的に進めていく必要がある。戦略的というのは、公共投資と民間投資をできるだけ合わせ技でやっていくこと。民間・行政の動きをうまく合わせていく方策を考えていくのが、次の段階のエリアマネジメントの目標だろう。

関根) 開発する場所が広げて考えられているように感じる。選択と集中、官民の役割分担という視点も必要ではないか。

廣川) 近年、大通地区では遊技場が増えているのをどうにもできず無常観を感じており、何かよいアイデアがあれば頂きたい。

保井) 遊技場の規制について、ニューヨークのタイムズスクエア近辺では、集積させないための条例を作っている事例がある。包括的な都心の構想とあわせて、それに基づく活動・事業があり、その中で問題となるような動きがあれば、規制を含めて考えていく方法はあると思う。

白鳥) チ・カ・ホでは冬は 8 万人、夏でも 6 万人が歩いており、経済的な要素としてのメリットがあるので、再投資が生まれるのではと期待している。その際、ばらばらな再投資がされないよう、一定方向のまちづくりの在り方を示すのがまちづくり会社の

本来の任務なのではないかと改めて感じている。

【エネルギーネットワーク】

小林) 札幌は冬季オリンピックの時に都心に投資されたが、そのとき同時にエネルギーの供給システムも検討された。都心の都市づくりと、投資を支える環境、livable な居住環境とあわせて、エネルギーネットワークをどう考えるか。福祉や病院、エネルギーを含めた社会都市基盤を価値あるものにして都市間競争に勝てるものにしていかなくてはならない。

村木) エネルギー単体で考えてもだめで、グリーンビルを作るだけでは、排出量減のイメージは作れるが、どんなクオリティのまちを作り、どういうストリートシーンができるのかを合わせて考えなくてはならない。どのような空間を作るか、メンテナンスもセットで考えていくべき。

【その他】

高野) スマートな社会の実現のために自転車利用が注目されている。これまでの駐輪対策だけでなく、限られた歩道・車道空間のなかで、移動手段としての自転車をどのようにとらえるのかを考えることも必要だろう。

関根) 観光面で Wi-Fi の環境整備は進められているが、人の住みやすさにも情報通信網は非常に必要。交通だけでなく、情報インフラの整備も必要だろう。

【札幌市各部長・室長から】

札幌市・城戸) 現在、低炭素都市のまちづくりに向けた計画を、2017年には環境基本計画の改定を予定しており、本計画にも反映して頂ければと思う。

札幌市・小野) 道都の象徴的な空間として、特に力を入れていくべきだと感じている。食・観光と言っているが、もっと懐を広く・深く構えることも必要ではないかと日々考えている。

札幌市・高野) MICE の総合戦略を作っているが、海外の人は東京や横浜・京都など、先進的なまちや日本的なまちでの滞在を求めている。札幌は、大きな国際会議等ではなく、国内の学会や、雪を見たいアジア層などをターゲットとして、第 2、第 3 グループを目指している。

札幌市・佐藤) 何を作るかというよりは、そこで活動する人のイメージが無いとだめだと思う。今昨年度は全モードの公共交通の利用が増え、観光客も車椅子の方の利用も増えている。どこに重点を置くか、我々も民間の方と関わりながら、積極的に考えていきたい。

札幌市・三澤) 都市計画マスタープランの取りまとめを行っている。札幌を象徴する都心についての議論は、都市マスにも反映できればと思う。

札幌市・齋藤）再開発は企業の方たちと意見交換しながら進めていくことが多いが、個人的には、事業をやっている方はアイデアが豊富なので、いかに民間の方の力を活かしていくか検討してほしいと思う。

札幌市・高森）都心まちづくり計画に、実行性を持たせたいと思っている。どこまで腹をくくり、何をプライオリティとするか、またどのようなマネジメント体制でいくかを検討しなくてはならない。